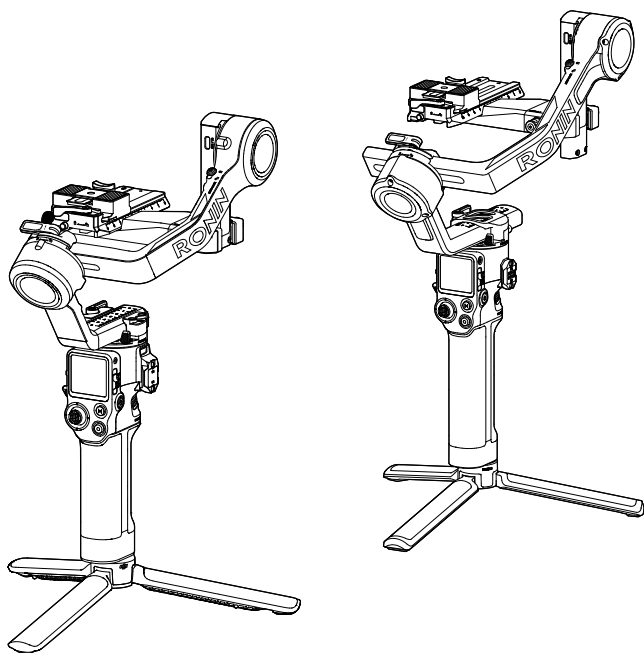


DJI RS 4 / RS 4 PRO

ユーザーマニュアル

v1.0 2024.04





本書の著作権は DJI にあり、すべての権利を DJI が留保しています。DJI が別途許可していない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用したり、他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示の参照目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックへの移動

目次のトピック一覧をご覧ください。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

△ 重要

💡 ヒントとコツ

ご使用前にお読みください

本マニュアルは、ジンバルを最大限に活用するために作成されています。

クイックスタートガイド

安全ガイドライン

ユーザーマニュアル

クイックスタートガイドやユーザーマニュアルの全文を読み、DJI™ の公式サイト (<https://www.dji.com/rs-4>、<https://www.dji.com/rs-4-pro>) の製品ページにあるチュートリアルビデオを視聴してください。安全ガイドラインを読んで、法的権利および責任を正しく理解してください。本製品の使用準備、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJI または DJI の正規代理店にお問い合わせください。

Ronin アプリをダウンロードしてチュートリアルビデオを視聴

DJI RS 4



<https://s.dji.com/guide73>

DJI RS 4 Pro



<https://s.dji.com/guide72>

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
Ronin アプリをダウンロードしてチュートリアルビデオを視聴	3
目次	4
はじめに	5
DJI RS 4 の各部名称	6
DJI RS 4 Pro の各部名称	7
初めてのご使用にあたって	8
バッテリーの充電	8
延長用グリップ／三脚の取り付け	9
カメラの取り付け	10
バランス調整	14
アクティベーション	22
ファームウェアの更新	23
カメラへの接続	23
オートチューン	24
操作	25
ボタンとポートの機能	25
タッチ画面	28
ジンバル フォローモード	33
ジンバル操作モード	35
Ronin アプリの設定	37
グリップおよび内蔵バッテリー	49
メンテナンス	52
仕様	52

はじめに

DJI RS 4 および DJI RS 4 Pro は、24 ~ 70 mm F2.8 レンズを装備するほとんどの主要なカメラに対応するプロ仕様の片手持ち 3 軸ジンバルです。DJI RS 4 はミラーレスカメラ用に専用設計されており、最大積載量（試験値）3 kg に対応しています。DJI RS 4 Pro は、ミラーレス小型カメラ用に専用設計されており、最大積載量（試験値）4.5 kg に対応しています。

ジンバルの構造は簡単に調整できます。ジンバル水平プレートをすばやく分解し、取り付けて、横向き撮影モードと縦向き撮影モードに切り替え可能です。新しいジョイスティックモードスイッチにより、ジョイスティックモードをすばやくジンバル動作制御またはズーム制御に切り替え可能です。自動軸ロックにより、撮影の効率性と操作性が大幅に向上しています。1.8 インチの OLED タッチ画面により、画面上でジンバルのキャリブレーションやパラメーター設定が可能です。搭載されているボタンを使い、ジンバルの制御やシャッター操作、動画の撮影、カメラのフォーカス調整を行うことができます。ジンバルは、Bluetooth を介してカメラとペアリングすることも、カメラ制御ケーブルを使用してカメラに接続することも可能で、簡単に制御できます。RSA/NATO ポートを装備し、DJI RS ブリーフケースハンドルなどのアクセサリに対応しています。

DJI RS 4 の駆動時間は 12 時間^[1]、DJI RS 4 Pro の駆動時間は 13 時間^[1]です。どちらのジンバルも BG70 大容量バッテリーグリップと互換性があり、DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro の駆動時間をそれぞれ 29.5 時間と 29 時間に延長できます。^[2]

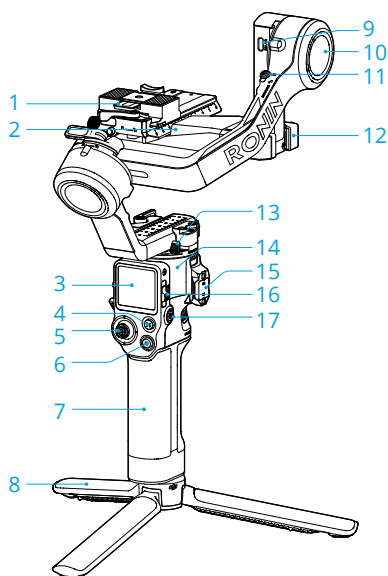
ジンバルは Ronin アプリに接続できます。このアプリを使用して、ジンバルの制御、パラメーターの設定、パノラマ、タイムラプス、トラックなどのインテリジェント機能を使用できます。

DJI RS 4 を新しい DJI Focus Pro Motor と併用することで、カメラを制御できます。DJI RS 4 Pro を新しい DJI Focus Pro Motor および LiDAR と併用することで、オートフォーカス機能を使用できます。DJI RS 4 Pro、DJI Transmission、DJI Focus Pro フォーカスシステムは、スタビライズ機構、映像モニタリング、ジンバル制御、オートフォーカス、フォーカスアシスタント用に相互接続されています。

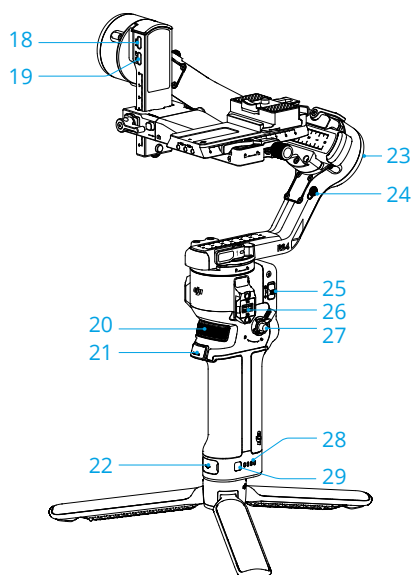
[1] ジンバルを水平に静置し、バランスが取れた状態で測定。ジンバルが動く状態では、動作時間は少なくなります。

[2] ジンバルを水平に静置し、バランスが取れた状態で、24℃のラボ環境で測定（参考値としてのみ使用）。

DJI RS 4 の各部名称

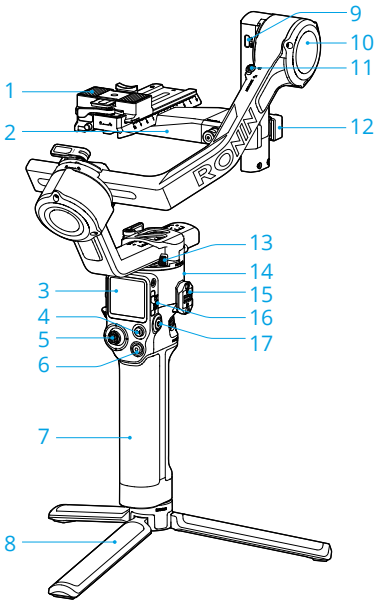


1. 上部／下部クイックリリース プレート
2. ジンバル水平プレート（カメラマウントプレートの脱着可能部品）
3. 1.8 インチ OLED フルカラータッチ画面
4. M ボタン
5. ジョイスティック
6. カメラ制御ボタン
7. BG21 グリップ（1/4-20 ねじ穴付きの内蔵バッテリー）
8. 延長用グリップ／三脚
9. RSS カメラ制御ポート（USB-C）
10. チルト軸モーター
11. チルト軸ロック
12. カメラマウントプレート
13. パン軸ロック
14. パン軸モーター
15. NATO ポート
16. ジンバルモード スイッチ
17. 電源ボタン

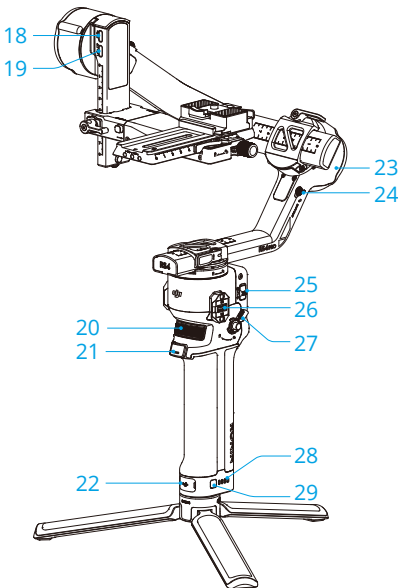


18. フォーカスモーター ポート（USB-C）
19. 映像伝送ポート（USB-C）
20. フロントダイヤル
21. トリガー
22. 充電ポート（USB-C）
23. ロール軸モーター
24. ロール軸ロック
25. ジョイスティックモードスイッチ
26. Ronin シリーズ アクセサリー（RSA）／NATO ポート
27. グリップレバー／安全ボタン
28. バッテリー残量インジケーター
29. バッテリー残量ボタン

DJI RS 4 Pro の各部名称



1. 上部／下部クイックリリース プレート
2. ジンバル水平プレート（カメラマウントプレートの脱着可能部品）
3. 1.8 インチ OLED フルカラータッチ画面
4. M ボタン
5. ジョイスティック
6. カメラ制御ボタン
7. BG30 グリップ（バッテリー内蔵、1/4-20 ねじ穴付き）
8. 延長用グリップ／三脚
9. RSS カメラ制御ポート（USB-C）
10. チルト軸モーター
11. チルト軸ロック
12. カメラマウントプレート
13. パン軸ロック
14. パン軸モーター
15. Ronin シリーズ アクセサリー（RSA）／NATO ポート
16. ジンバルモード スイッチ
17. 電源ボタン

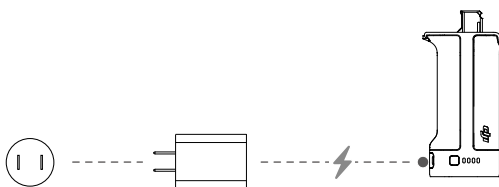


18. フォーカスモーター ポート（USB-C）
19. 映像伝送／LiDAR レンジファインダーポート（USB-C）
20. フロントダイヤル
21. トリガー
22. 充電ポート（USB-C）
23. ロール軸モーター
24. ロール軸ロック
25. ジョイスティックモードスイッチ
26. Ronin シリーズ アクセサリー（RSA）／NATO ポート
27. グリップレバー／安全ボタン
28. バッテリー残量インジケーター
29. バッテリー残量ボタン

初めてのご使用にあたって

バッテリーの充電

初めて使用する場合は、付属の USB-A - USB-C ケーブルをバッテリーグリップの USB-C ポートに接続し、バッテリーをアクティベーションして充電します。バッテリーインジケーターが点灯するとアクティベーションは完了です。DJI RS 4 のバッテリーを完全に充電するには約 2.5 時間^[1]、DJI RS 4 Pro のバッテリーを完全に充電するには 1.5 時間^[2]かかります。電源オフ時に現在のバッテリー残量を確認するには、バッテリー残量ボタンを押します。



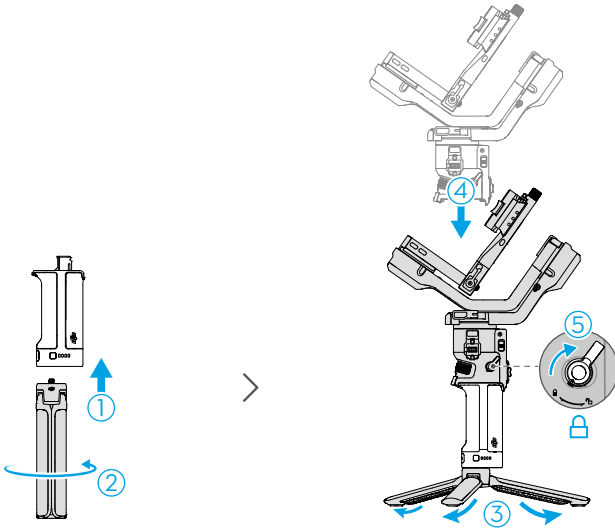
- [1] 18 W 急速充電対応充電器で測定。PD プロトコル対応充電器の使用をお勧めします。
- [2] 24 W 急速充電対応充電器で測定。QC (Quick Charge) 2.0、または PD プロトコル対応充電器の使用をお勧めします。

延長用グリップ／三脚の取り付け

1. 延長用グリップ／三脚をバッテリーグリップに取り付け、締めつけて、三脚を展開します。
2. DJI RS 4 の軸アームからフォームと保護フィルムを取り外し、DJI RS 4 Pro の軸アームからシリコンカバーを取り外して、ジンバルをバッテリーグリップに取り付けます。「カチッ」という音がして、ハンドルがしっかりと取り付けられたことを確認してから、グリップレバーをロック方向に締めつけます。

💡 • DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro は同様に取り付け可能です。以下の例では、DJI RS 4 を使用しています。

⚠️ • グリップレバーをそれ以上回転できなくなるまでしっかりと動かします。矢印はロックの方向のみを示し、完全にロックされた位置を示していません。



グリップを取り外すには、ロック解除位置にレバーを保持し、安全ボタンを押したままジンバルからグリップを引き離します。

カメラの取り付け

対応するカメラとレンズ

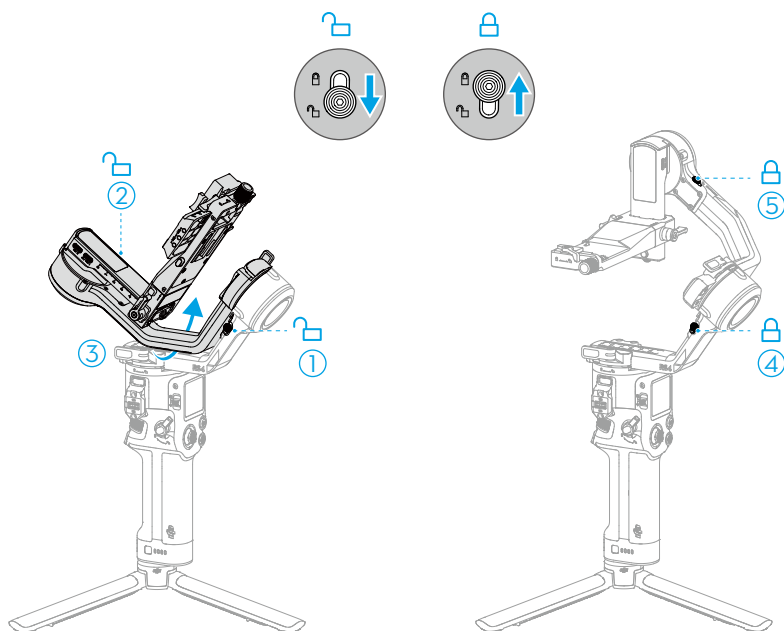
DJI RS 4 および DJI RS 4 Pro は厳密にテストされており、それぞれ 3 kg と 4.5 kg の積載量を備えています。カメラ、レンズ、その他のアクセサリの総重量が積載量以内であることを確認してください。最新の Ronin シリーズ互換性ガイドについては、DJI の公式 Web サイト (<https://www.dji.com/support/compatibility>) を参照してください。

カメラの取り付け

カメラを取り付ける前に、次の準備を行ってください。

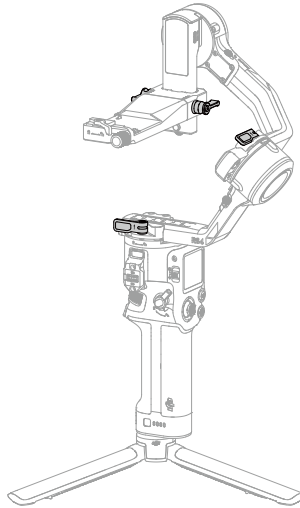
- レンズキャップを取り外し、カメラのバッテリーとメモリーカードが挿入されていることを確認してください。
- ジンバルの電源を切ります。
- パン軸のロックを解除し、180°回転させます。ピッチおよびロール軸ロックをそれぞれロック解除位置に動かし、下図に示されているように両方の軸の位置を調整し、ロックします。

- ☀ • DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro は同様に取り付け可能です。以下の例では、DJI RS 4 を使用しています。



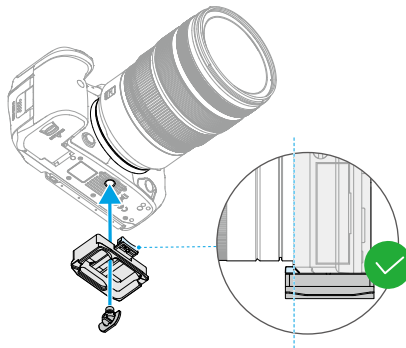


- 取り付け時に、マウントプレートの両側にあるパン軸レバー、ロール軸レバー、ノブがカメラに干渉する場合は、レバーまたはノブを持ち上げてそれらの向きを変更します。



1. 上部クイックリリース プレートの取り付け

ねじキットの 1/4 インチねじを使用して、上部クイックリリースプレートを実機に取り付けます。ねじをロックする前に、調整可能な配置ガイドを実機本体に装着します。



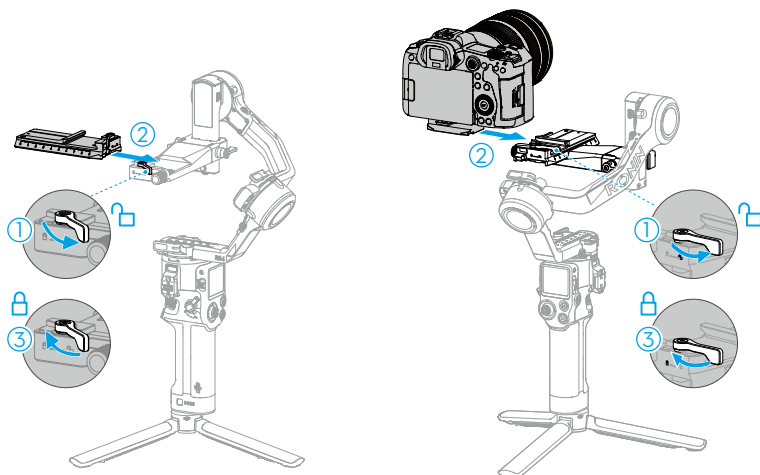
2. ジンバルへのカメラ取り付け

DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro は、横向き撮影と縦向き撮影に対応しています。手順に従って、横向き撮影モード／縦向き撮影モードでカメラを取り付けます。

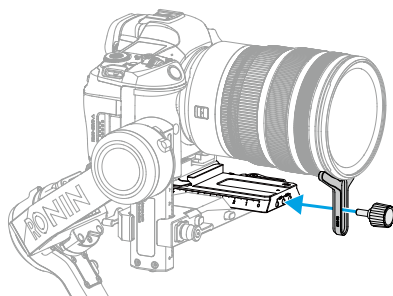
横向き撮影

- マウントプレートのレバーをロック解除位置に動かし、下部クイックリリースプレートを挿入します。プレートが固定されたらレバーをロック位置に動かします。
- 下部クイックリリースプレートのレバーをロック解除位置に動かし、上部クイックリリースプレートを挿入します。プレートが固定されたらレバーをロック位置に動かします。

- 💡
- 下部クイックリリースプレートからカメラを取り外すには、レバーをロック解除位置に動かし、レバーの横にある安全ロックを押しながらカメラを取り外します。
 - 下部クイックリリースプレートを取り外すには、カメラマウントプレートのレバーをロック解除位置に動かし、マウントプレートの安全ロックを押しながら下部クイックリリースプレートを取り外します。

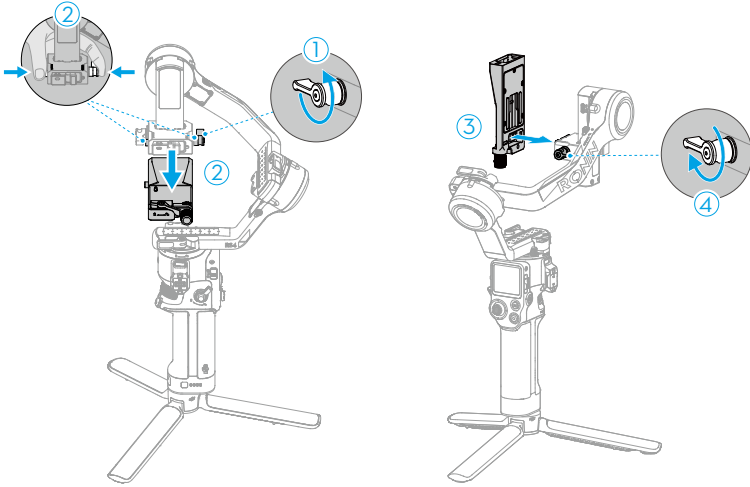


長さや重量のあるレンズを取り付ける場合は、レンズ固定サポートの使用をお勧めします。

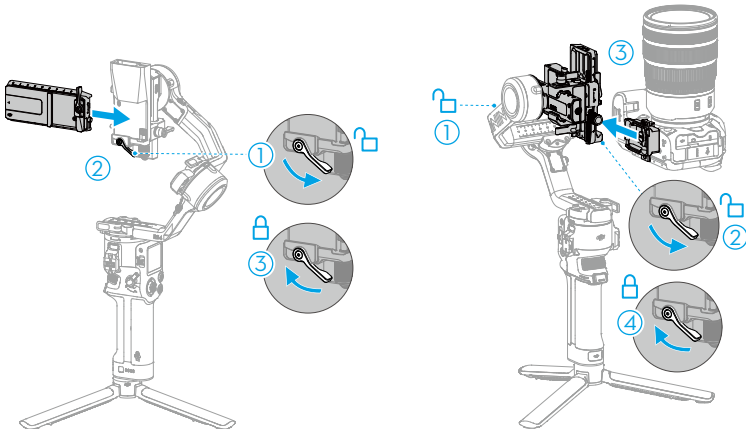


縦向き撮影

- a. カメラマウントプレートのノブを緩め、ノブと安全ロックを同時に押して、ジンバル水平プレートを取り外し、ジンバルにプレートを垂直に取り付けてノブを締めつけます。



- b. 水平プレートのレバーをロック解除位置に動かし、下部クイックリリースプレートを挿入します。プレートが固定されたらレバーをロック位置に動かします。
- c. チルト軸のロックを解除し、軸アームをそっと静止させて水平位置に保持します。下部クイックリリースプレートのレバーをロック解除位置に動かし、上部クイックリリースプレートを挿入します。プレートが固定されたらレバーをロック位置に動かします。チルト軸のロックを固定します。



バランス調整

ジンバルを使用する前に、撮影要件に従って、垂直チルト、チルト軸の奥行き、ロール軸、パン軸のバランスを順番に調整します。これにより、動画の安定性とジンバルの最大限の性能を確保します。

- ☀️ • DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro のバランスも同様に調整します。以下の例では、DJI RS 4 を使用しています。

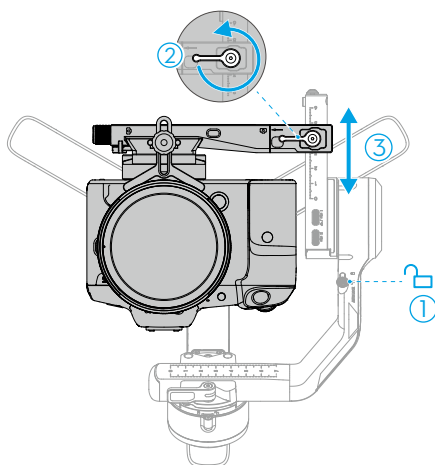
- ⚠️ • ジンバルがアンバランスな場合、動画の安定性に影響を及ぼし、バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。極端にアンバランスな場合、デバイスが過熱してハイバネーションになる可能性があります。

バランス調整を行う前に

1. 光学ズームレンズを使用する場合、バランス調整前に必ずカメラの電源を入れてください。可変焦点レンズを使用する場合、バランス調整前に焦点距離を選択してください。
2. バランス調整前に、DJI RS 4/DJI RS 4 Pro の電源がオフになっていること、またはスリープモードになっていることを確認してください。

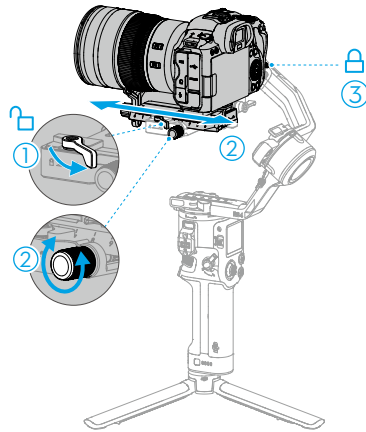
横向き撮影でのバランス調整

1. 垂直チルトのバランス調整
 - a. チルト軸のロックを解除します①。
 - b. 下図（上面図）に従って、カメラレンズが上向きになるようにチルト軸を回転させます。カメラの上下に重さが偏っていないかどうかを確認します。カメラの上方に偏っている場合は、カメラを後方に動かします。カメラの下方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします。マウントプレートノブ②を緩め、マウントプレート③を前後に動かして重心を調整します。
 - c. カメラを上に向けた状態で、マウントプレートのノブを締めつけます。カメラが上向きで安定している場合は、垂直チルトのバランスが取れています。



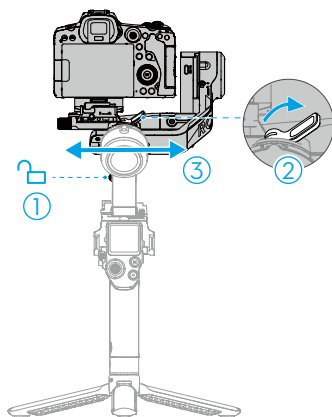
2. チルト軸の奥行きバランス調整

- a. チルト軸を回転させて、カメラレンズを前方に向けます。
- b. カメラの重量バランスが前後に偏っていないことを確認します。前方に偏っている場合は、ノブを回してカメラを後方に動かします。後方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします。マウントプレートのレバー①のロックを解除し、下部クイックリリースプレート②を前後に動かして重心を調整します。
- c. マウントプレートのレバーをロック位置に動かします。カメラを上下に 45° 傾けても安定している場合は、チルト軸のバランスが取れています。
- d. チルト軸をロックします③。



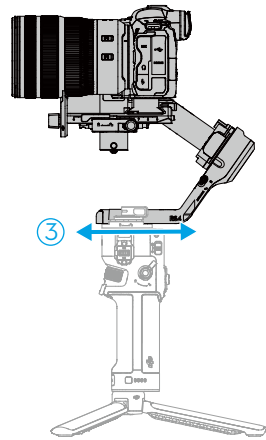
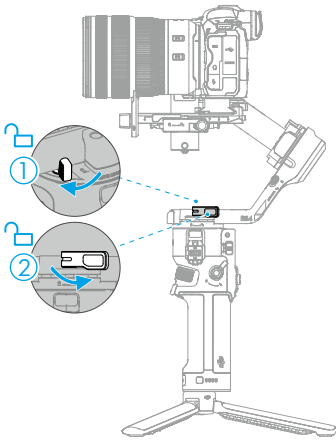
3. ロール軸のバランス調整

- a. 軸アームをそっと静止させて、ロール軸のロックを解除します①。
- b. ロール軸モーターが揺れる方向を確認します。カメラが左に回転する場合は、カメラを右に移動します。カメラが右に回転する場合は、カメラを左に移動します。ロール軸のレバー②のロックを解除し、マウントプレート（カメラ）をそっと静止させ、ロール軸アーム③を動かして重心を調整します。
- c. ロール軸アームのレバーをロック位置に動かします。カメラが水平に安定している場合は、ロール軸のバランスが取れています。
- d. ロール軸をロックします。



4. パン軸のバランス調整

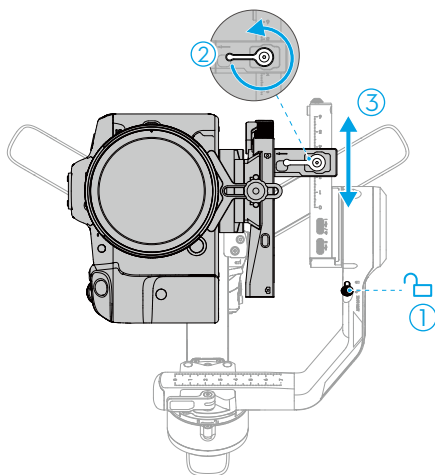
- a. パン軸のロックを解除します①。
- b. グリップを持ってジンバルを前方に傾け、パン軸アームが自分と平行になるまで回転させます。パン軸の動きを確認してください。カメラレンズが左に回転する場合は、パン軸を右に押します。カメラレンズが右に回転する場合は、パン軸を左に押します。パン軸のレバー②のロックを解除し、パン軸アーム③を動かして重心を調整します。
- c. パン軸アームのレバーをロック位置に動かします。グリップを傾け、パン軸が回転してもカメラが安定している場合は、パン軸のバランスが取れています。



縦向き撮影でのバランス調整

1. 垂直チルトのバランス調整

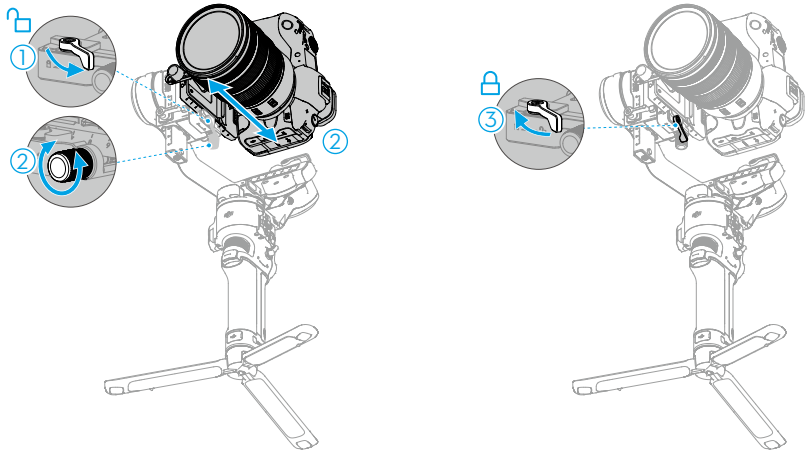
- a. チルト軸のロックを解除します①。
- b. 下図（上面図）に従って、カメラレンズが上向きになるようにチルト軸を回転させます。カメラの上下に重さが偏っていないかどうかを確認します。カメラの上方に偏っている場合は、カメラを後方に動かします。カメラの下方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします。マウントプレートノブ②を緩め、マウントプレート③を前後に動かして重心を調整します。
- c. カメラを上に向けた状態で、マウントプレートのノブを締めつけます。カメラが上向きで安定している場合は、垂直チルトのバランスが取れています。



2. チルト軸の奥行きバランス調整

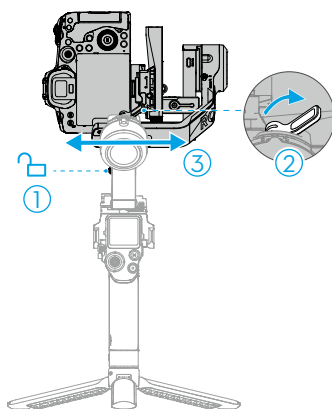
- チルト軸を回転させて、カメラレンズを前方に向けます。
- カメラの重量バランスが前後に偏っていないことを確認します。前方に偏っている場合は、ノブを回してカメラを後方に動かします。後方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします。マウントプレートのレバー①のロックを解除し、下部クイックリリースプレート②を前後に動かして重心を調整します。
- マウントプレートのレバーをロック位置に動かします。カメラを上下に 45° 傾けても安定している場合は、チルト軸のバランスが取れています。
- チルト軸をロックします③。

💡 • 横向き撮影モードから縦向き撮影モードに切り替えるときに、チルト軸の奥行きバランスを再調整する必要はありません。



3. ロール軸のバランス調整

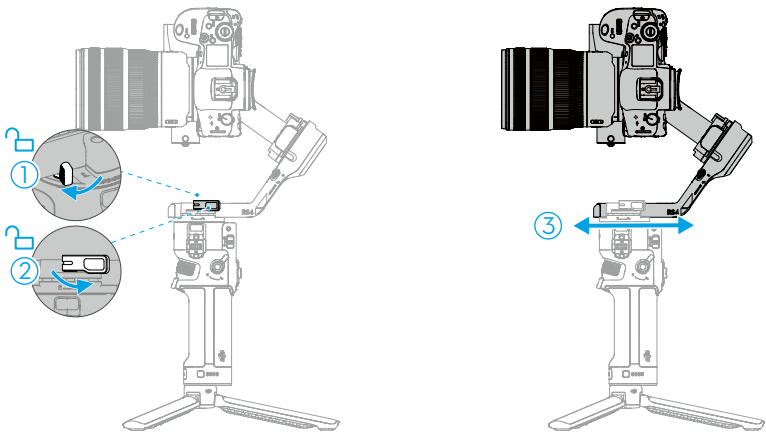
- a. 軸アームをそっと静止させて、ロール軸のロックを解除します①。
- b. ロール軸モーターが揺れる方向を確認します。カメラが左に回転する場合は、カメラを右に移動します。カメラが右に回転する場合は、カメラを左に移動します。ロール軸のレバー②のロックを解除し、マウントプレート（カメラ）をそっと静止させ、ロール軸アーム③を動かして重心を調整します。
- c. ロール軸アームのレバーをロック位置に動かします。カメラが水平に安定している場合は、ロール軸のバランスが取れています。
- d. ロール軸をロックします。



4. パン軸のバランス調整

- a. パン軸のロックを解除します①。
- b. グリップを持ってジンバルを前方に傾け、パン軸アームが自分と平行になるまで回転させます。パン軸の動きを確認してください。カメラレンズが左に回転する場合は、パン軸を右に押します。カメラレンズが右に回転する場合は、パン軸を左に押します。パン軸のレバー②のロックを解除し、パン軸アーム③を動かして重心を調整します。
- c. パン軸アームのレバーをロック位置に動かします。グリップを傾け、パン軸が回転してもカメラが安定している場合は、パン軸のバランスが取れています。

💡 • 横向き撮影モードから縦向き撮影モードに切り替えるときに、パン軸のバランスを再調整する必要はありません。

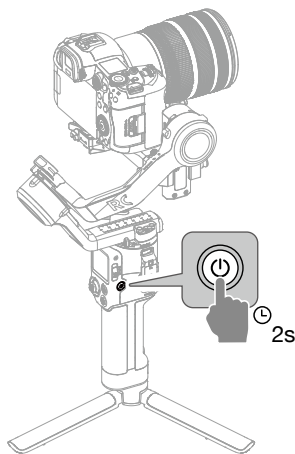


アクティベーション

DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro では、Ronin アプリを使用してアクティベーションを行う必要があります。デバイスをアクティベーションするには、以下の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを長押ししてデバイスの電源を入れ、タッチ画面で言語を選択します。
2. タッチ画面の QR コードをスキャンして、Ronin アプリをダウンロードします。アクティベーションの手順をスキップすると、ジンバルは自動的にロック解除され、画面上に指示が表示されます。
3. スマートフォンの Bluetooth を有効にします。Ronin アプリを起動し、DJI アカウントでログインします。使用しているデバイスを選択し、デフォルトのパスワード「12345678」を入力し、指示に従ってジンバルをアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

- 💡
- ジンバルはアクティベーションせずに最大5回使用できます。それ以降の使用にはアクティベーションが必要となります。
 - デバイスの画面で QR コードをスキャンしても Ronin アプリをダウンロードできない場合は、<https://www.dji.com/mobile/downloads/djiapp/dji-ronin> にアクセスするか、以下の QR コードをスキャンしてください。



DJI Ronin App

ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、Ronin アプリから通知されます。画面上の指示に従ってファームウェアを更新してください。ファームウェア更新中は、ジンバルの電源を切ったり、アプリを終了したりしないでください。更新に失敗した場合は、ジンバルと Ronin アプリを再起動し、再試行してください。



- 更新する際は、ジンバルに十分な電力があり、携帯電話がインターネットに接続されていることを確認してください。
- 更新プロセス中にジンバルが自動的にロック解除、ロック、再起動するのは正常です。

カメラへの接続

DJI RS 4 および DJI RS 4 Pro は、Bluetooth またはカメラ制御ケーブル経由でカメラに接続できます。

Bluetooth によるカメラへの接続

カメラでの Bluetooth の有効化

ジンバルは一部の Sony 製および Canon 製カメラに対応しており、Bluetooth によるカメラへの接続後にシャッターを制御します。対応するカメラモデルと設定方法については、「Ronin シリーズ互換性一覧」を参照してください。

Sony A7S3 の場合、カメラの Bluetooth を次のように設定します。

- カメラのメニューを開き、[ネットワーク 2] > [Bluetooth] > [Bluetooth 機能] > [オン] の順に選択します。
- [ネットワーク]、[Bluetooth リモコン] の順に移動し、[オン] を選択します。
- 使用するジンバルの名前を選択し、ペアリングを実行します。

Canon EOS R5 の場合、カメラの Bluetooth を次のように設定します。

- カメラメニューを開き、[無線通信機能] > [Bluetooth 設定] > [Bluetooth] > [使う] の順に選択します。
- [無線通信機能] > [Wi-Fi/Bluetooth 接続] に移動し、[ワイヤレスリモコンと接続] を選択します。
- Q (クイック設定) ボタンを短く押して、[ドライブモード] > [セルフタイマー] を選択します。遅延を [1 秒 / リモコン撮影] または [2 秒 / リモコン撮影] に設定します。
- [設定] > [節電] > [オートパワーオフ] に移動し、[しない] を選択します。
- 動画モードに切り替えて、[撮影と録画] > [リモコン撮影] > [する] を選択します。

ジンバル Bluetooth の設定

タッチ画面の [ホーム画面] を上から下にスワイプし、[コントロールセンター画面] を表示させます。右上隅にある [Bluetooth] アイコンをタップします。ジンバルが、周囲のデバイスの Bluetooth 信号をスキャンします。対応する（接続する）カメラの Bluetooth を選択します。一部のカメラでは、ペアリングにパスワードが必要です。正常に接続されると、Bluetooth アイコンは青色に変わります。



・ジンバルが一度に接続できるカメラは、1 台のみです。

注記

1. カメラをジンバルに初めて接続した後、カメラとジンバルを再起動すると、Bluetooth シャッターが自動的に再接続されます。一部のカメラでは、再起動後に自動的に再接続させるために、ユーザーがジンバルのカメラ制御ボタンを短く押す必要があります。
2. ファームウェアの更新後、カメラの Bluetooth に再接続します。
3. Bluetooth でサポートされている制御機能の詳細については、「Ronin シリーズ互換性一覧」を参照してください。

カメラ制御ケーブルを使用したカメラへの接続

カメラ制御ケーブルを使用して、ジンバルの RSS カメラ制御ポートとカメラの USB ポートを接続します。

カメラで使用するケーブルの詳細情報とそれらが実行できる機能については、「Ronin シリーズ互換性一覧」を参照してください。

オートチューン

オートチューンは、ジンバルが最適な性能を発揮できるように、ペイロードに合わせて、モーターの適切な剛性を提供します。自動キャリブレーションを開始するには、以下の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを 2 秒間長押ししてジンバルの電源をオンにすると、3 軸が自動的にロック解除されて展開します。
2. M ボタンとトリガーボタンを長押しして、自動キャリブレーションを開始します。



・ジンバルを安定した平らな面に置いてください。自動キャリブレーション中はジンバルを動かさないでください。キャリブレーション中にジンバルが揺れたり、音がすることがありますが、これは正常です。

操作

ボタンとポートの機能



電源ボタン

長押し：ジンバルの電源をオン／オフします。

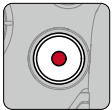
1 回押し：スリープモードを開始／解除します。3 軸が自動的にロックされます。もう一度押しと、ジンバルが復帰します。

- ☀️ ・ジンバルの電源がオンになると、3 軸はデフォルトで自動的にロック解除され、ジンバルの電源がオフになると、自動的に折りたたまれてロックされます。
- ・自動軸ロックに関連する設定は、タッチ画面のシステム設定で調整できます。



ジンバルモード スイッチ

このスイッチを切り替えて、ジンバルモードを PF、PTF、FPV 間で切り替えます。



カメラ制御ボタン

カメラとの接続後に、半押ししてオートフォーカスにします。1 回押しと、録画を開始／停止します。長押しすると写真を撮影します。

- ☀️ ・対応カメラ機能の詳細は、Ronin シリーズ互換性ガイドを確認してください。



M ボタン

1 回押しと、デフォルトで写真を撮影します。

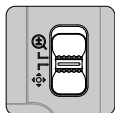
DJI RS 4 の場合、このボタン機能はタッチ画面で、[C1/Fn1 ボタンマッピング] に設定できます。

DJI RS 4 Pro の場合、このボタン機能はタッチ画面で、[C1/Fn1 ボタンマッピング] または [LiDAR AF/MF] に設定できます。*

* これには、DJI Focus Pro LiDAR が必要です。

長押し：スポーツモードに入ります。スポーツモードでは、ジンバルのフォロー速度が大幅に加速します。被写体が高速で動くシナリオでの撮影に適しています。

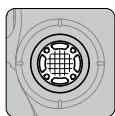
M ボタンを長押ししながら、トリガーボタンを 2 回押し：スポーツモードに入り、その状態を継続します。同じ操作を繰り返して終了。



ジョイスティックモードスイッチ

下に押す：ジョイスティックモードがジンバル動作制御に設定されます。

上に押す：ジョイスティックモードがズーム制御に設定されます。



ジョイスティック

ジンバル動作制御：ジョイスティックを上下に動かしてジンバルのチルトを制御し、左右に動かしてジンバルのパンを制御します。

ズーム制御：ジョイスティックを上下に動かしズームを制御します。



- Sony 製カメラの電動ズームを有効にすると、ジョイスティックでカメラの電動ズームを制御できます。DJI Focus Pro Motor と併用した場合、ジョイスティックでキャリブレーション後のズームを制御できます。使用時にモーターを Z モードに設定してください。

- ジョイスティックの制御モードと方向は、Ronin アプリで設定できます。



トリガー

長押ししている間、ロックモードに入ります。ロックモードでは、ジンバルはグリップの操作に反応しません。タッチ画面での設定後、トリガーボタンを長押しして FPV モードに入ります。

2 回押すと、ジンバルを再センタリングします。

3 回押すと、ジンバルが 180° 回転し、カメラがユーザーの方を向きます（セルフイーモード）。

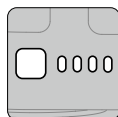


フロントダイヤル

デフォルトでは、回してフォーカスモーターを制御します。タッチ画面から設定の変更ができます。詳細については、タッチ画面のセクションを参照してください。



- 対応機能の詳細は、Ronin シリーズ互換性ガイドを確認してください。



バッテリー残量ボタン

ボタンを 1 回押してバッテリー残量を確認します。



RSS カメラ制御ポート

カメラへの接続用です。



フォーカスモーターポート

フォーカスモーターへの接続用です。

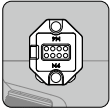


映像伝送ポート (DJI RS 4)

DJI RS 4 では、このポートを DJI Ronin 映像トランスミッターに接続することも、フォーカス制御用にフォーカスモーターに接続することもできます。

映像伝送／LiDAR レンジファインダーポート (DJI RS 4 Pro)

DJI RS 4 Pro では、このポートを通信用に DJI Ronin 映像トランスミッターに接続することも、フォーカス制御、ズーム制御、ActiveTrack Pro 実行用に LiDAR に接続することもできます。



Ronin シリーズ アクセサリー (RSA) ／ NATO ポート

DJI R フォーカスホイール、DJI R ツイストグリップ デュアルハンドル、DJI RS ブリーフケース ハンドル接続用。

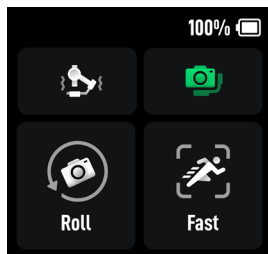


- DJI RS 4 Pro には、タッチ画面の両側に RSA/NATO ポートがあります。DJI RS 4 には、タッチ画面の左側に RSA/NATO ポート、右側に NATO ポートがあります。

タッチ画面

ホーム

ホーム画面には、オートチューン、バランス状態、ジンバル フォローモード、およびフォロー速度のアイコンが表示されます。タッチ画面上部のステータスバーには、ジンバルの接続状態とバッテリー残量が表示されます。



オートチューン

オートチューンの画面に表示される3つの値は、3軸の剛性を示します。

[キャリブレーション開始]をタップすると、DJI RS 4のジンバルが自動的にキャリブレーションされます。

DJI RS 4 Proの場合は、撮影要件に応じて[ハンドヘルドモード]または[カーマウントモード]を選択してから、[キャリブレーション開始]をタップします。[ハンドヘルドモード]は、ほとんどのシナリオの撮影要件を満たすことができます。[カーマウントモード]は、車両での撮影シナリオで安定性を向上させます。



- ジンバルのバランス調整後に、焦点距離、レンズ、カメラの変更によりバランス状態アイコンが赤色に変わった場合、または原因不明でジンバルが揺れる場合は、自動キャリブレーションを実行することをお勧めします。
- ジンバルを安定した平らな面に置いてください。自動キャリブレーション中はジンバルを動かさないでください。キャリブレーション中にジンバルが揺れたり、音がすることがありますが、これは正常です。
- ジンバルが十分に安定していない場合は剛性を高め、ジンバルが揺れ始めた場合は剛性を下げることをお勧めします。

バランス状態

ステータスバーが緑色またはグレーの場合、ジンバルの均衡が取れていることを示します。ステータスバーが黄色の場合、ジンバルが少し均衡が取れていないことを示します。ステータスバーが赤色の場合、ジンバルが極度に均衡が取れていないことを示します。この表示が出たときは、対応する軸を再度バランス調整してください。ジンバルのバランス状態を確認するには、ジンバルを左右に15°傾けてステータスバーを確認してください。

ジンバル フォローモード

FPV モードは、タッチ画面で 3D ロール 360 モードまたはカスタムモードに切り替えることができます。

フォロー速度

タップしてフォロー速度を選択します。高速、中速、低速、カスタムから選択ができます。速度をカスタマイズするには、タッチ画面の上部右にあるアイコンをタップしてください。

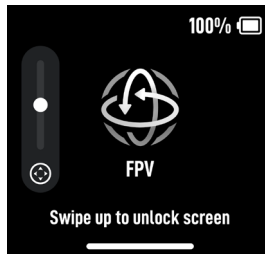
下にスライド - コントロールセンター画面

タッチ画面を上から下にスライドして、[コントロールセンター]画面を表示させます。



画面

タップして自動ロック、ロック中の輝度、回転を設定します。回転を有効にすると、画面表示が 180° 反転します。タイムアウト後に操作しないと、画面はロックされます。ロック画面には、ジンバル フォローモード、ジョイスティックモード、ジョイスティックの動きが表示されます。上にスワイプしてロック画面を終了します。



Bluetooth

アイコンをタップすると、Bluetooth 経由でカメラに接続されます。[接続]をタップして、ジンバルとカメラの Bluetooth をペアリングします。一部のカメラ（BMPCC シリーズカメラなど）では、ペアリングにパスワードが必要です。正常に接続されると、アイコンが青色に変わります。

 ・ジンバルが一度に接続できるカメラは、1 台のみです。



フォーカスマーターエンドポイント

フォーカスマーターのキャリブレーションを選択して、フォーカスマーターのエンドポイントを手動で設定または無効にできます。

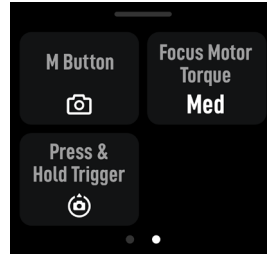
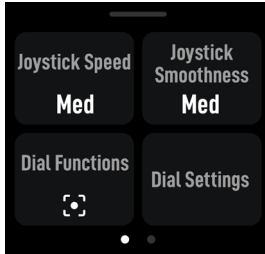


システム設定

項目	説明
セルフィーの無効化	セルフィーを無効にすると、誤ってセルフィーモードになって録画が中断されるのを防ぎます。
オービットフォロー	アークショット（被写体を中心に周回）撮影時に有効にすると、その間はジンバルの動きがスムーズになります。
自動ロック	[自動軸ロック] を有効にするかどうか、および電源のオン／オフとスリープモードの開始／終了時の軸ロックの動作を選択します。  ・ DJI RS 4 Pro を使用する場合は、[折りたたむ&ロック] を選択する前に、ロール軸がパン軸に干渉していないことを確認してください。ジンバルが破損する恐れがあります。
サイレントモード	有効にすると、消音します。 自動キャリブレーション中にジンバルから発生する音やロック／ロック解除の音は消音されません。
ブッシュモード	チルト軸とパン軸を手動で制御することができます。
水平キャリブレーション	ジンバルが水平でない場合や軸がドリフトしている場合は、水平キャリブレーションまたは手動でのキャリブレーションを試行してください。手動でのキャリブレーション後もジンバルが水平でない場合は、ジンバルが水平になるまで再試行することをお勧めします。
ジンバル自動確認	タップしてジンバルのハードウェアステータス情報を分析して出力します。タップすると詳細を表示し、エラーが検出された場合は解決策も表示します。
パラメーターの復元	タップすると、ジンバルパラメーター（ジョイスティックモード、フォローモード、ボタン機能）と Bluetooth パスワードを復元します。
言語	簡体中国語、英語、繁体中国語を含む 11 カ国の言語に対応しています。
機器情報	タップすると、デバイスの SN（シリアル番号）、デバイス名、パスワードなどの機器情報を表示します。
ファームウェアバージョン	タップすると、ジンバルとアクセサリーのファームウェアバージョンを表示します。
コンプライアンス情報	タップすると、コンプライアンス情報が表示されます。

上にスライド - ジンバル設定画面

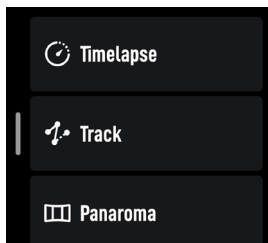
タッチ画面を下から上にスライドすると、ジンバル設定画面に入ります。



ジョイスティック速度	ジンバルに対するジョイスティックの速度を制御できます。高速、中速、低速、カスタムから選択ができます。速度をカスタマイズするには、タッチ画面の上部右にあるアイコンをタップしてください。値が大きいほど、ジョイスティック速度が速くなります。
ジョイスティックスムージング	ジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。
ダイヤル機能	フロントダイヤルの機能を設定できます。フォーカスモーター、Bluetooth（ケーブル駆動）フォーカス、ISO、絞り、シャッター速度、ロール軸、パン軸、チルト軸の制御を選択できます。
ダイヤル設定	フロントダイヤルに設定した機能の応答速度を設定したり、ダイヤルの方向を逆にしたりできます。
M ボタン	デフォルトで写真を撮影できます。 DJI RS 4 の場合、このボタン機能はタッチ画面で、[C1/Fn1 ボタンマッピング] に設定できます。 DJI RS 4 Pro の場合、このボタン機能はタッチ画面で、[C1/Fn1 ボタンマッピング] または [LiDAR AF/MF] に設定できます。* * これには、DJI Focus Pro LiDAR が必要です。 カメラの C1/Fn1 ボタン機能をマッピングします。 1. Sony A7S3、A7M3、ZV-1、Nikon Z50、Z6II カメラの C1 または Fn1 ボタンに M ボタンをマッピングします。 2. カメラの C1/Fn1 ボタンの設定を完了します。 ☀️ • この機能は、Bluetooth 経由でカメラに接続している場合にのみ使用できます。
フォーカスモータートルク	タップして、モーターの強度を高、中、または低に調整します。
トリガーの長押し	トリガーの長押し機能は、ジンバルのロックまたは FPV モードの開始に設定できます。

左にスライド - 作成画面

画面を右から左にスライドすると、作成画面に入ります。



タイムラプス

タイムラプスでは、ジンバルがカメラを起動し、設定した時間間隔で静止画を撮影して、完了すると自動的に停止します。タイムラプスの時間と時間間隔を設定することで、ジンバルは必要とする写真の正確な枚数と、フレームレート設定後の動画の時間を計算できます。

モーションラプスでは、最大 5 点のウェイポイント（経由点）を設定でき、タイムラプス撮影中にカメラは移動しながら撮影します。

トラッキング

トラッキングは、最大 10 点までウェイポイントを設定し、動画を撮影するようにします。ジンバルを手動で動かすか、ジョイスティックを使用して、ウェイポイントを選択する必要があります。「+」をタップしてウェイポイントを追加します。

ウェイポイントを追加すると、ウェイポイント設定画面で時間と滞在時間を設定できます。ウェイポイントの位置をリセットすることもできます。時間は、ジンバルが 1 つのウェイポイントから次のウェイポイントまで移動する際の時間を示します。滞在時間は、次のウェイポイントに移動する前に、ウェイポイントでジンバルがどのくらいの時間静止するかを示します。

パノラマ

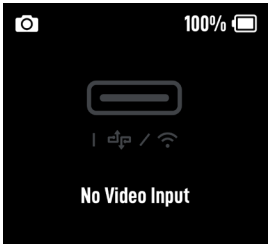
パノラマでは、設定に基づいた精密な制御で、相互につなぎ合わせることでできる複数の写真を撮影することができます。その後、画像処理ソフトウェアを使用してパノラマを生成できます。3 × 3 または 180° パノラマを選択時、カメラは設定範囲に基づいて、相互につなぎ合わせることでできる複数の写真を撮影します。720 度 VR パノラマを作成するときには、センサータイプ、レンズの焦点距離、オーバーラップ、間隔を設定する必要があります。カスタムパノラマを作成するときには、撮影範囲、センサータイプ、レンズの焦点距離、オーバーラップ、間隔を設定する必要があります。



- ・長時間露光の使用時に映像がぼやけないようにするには、写真の撮影間隔を、シャッター時間よりも 1 秒長く設定する必要があります。

右にスライド - LiDAR / 映像伝送画面（DJI RS 4 Pro）

タッチ画面を左から右にスライドすると、LiDAR / 映像伝送画面に入ります。



接続されたデバイスがなければ、[入力信号なし] と画面に表示されます。

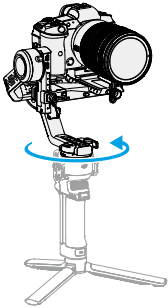
DJI Ronin 映像トランスミッターの使用時に、タッチ画面と Ronin アプリにカメラビューが表示されている場合は、ActiveTrack Pro と Force Mobile を使用できます。

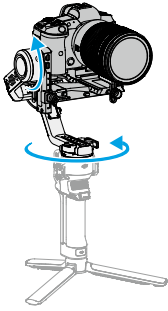
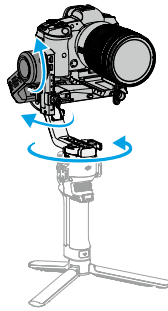
DJI Focus Pro LiDAR の使用時は、オートフォーカスと ActiveTrack Pro を使用できます。

ジンバル フォローモード

DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro のジンバル フォローモードには、パンフォロー（PF）、パン&チルトフォロー（PTF）、パン、チルト、ロールフォロー（FPV）が装備されています。FPV モードは、タッチ画面で 3D ロール 360 モードまたはカスタムモードに切り替えることができます。

💡 ・ DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro のジンバル フォローモードは同じです。以下の例では、DJI RS 4 を使用しています。

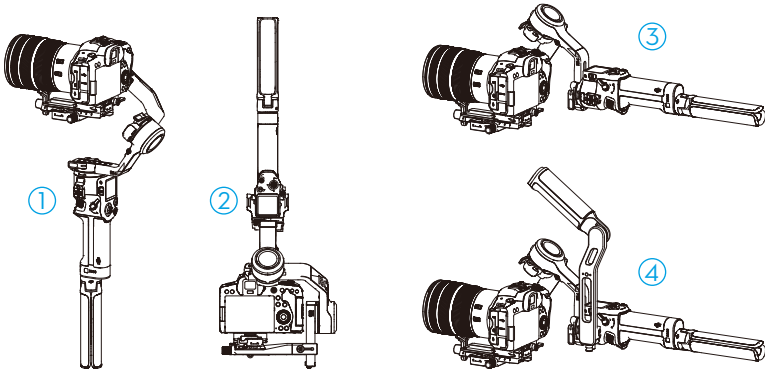
ジンバル フォローモード	説明	適用シーン
PF 	PF：パンフォロー。パン軸のみがグリップの動きに追従します。	ウォークスルーショット（ドアや門などを通り抜けながら撮影）やアークショット、左右の動きの多いシナリオでの撮影に適しています。

PTF 	PTF：パン & チルトフォロー。 パンとチルトの両方の軸がグリップの動きに追従します。	傾斜して動いているシナリオに適しています。
FPV 	FPV：パン、チルト、ロールフォロー。3つの軸全てがグリップの動きに追従します。	カメラが回転するシナリオに適しています。
カスタム	カスタム：必要に応じて、任意の軸の追従を有効または無効にできます。3軸共に無効にした場合は、ロックモードが有効になります。ロックモードでは、3軸のすべてがグリップの動きに追従しません。	スムーズなトラック撮影や迅速なアクション撮影に適しています。カスタムモードは、車両の撮影シナリオにお勧めです。このモードを使用する際は、3軸フォローを無効にします。
3D ロール 360	3D ロール 360 モードでは、チルト軸が 90° 上に回転し、カメラレンズが真上を向きます。この位置で、ジョイスティックを使用してパン軸の 360° 回転を制御できます。	回転しながらの撮影に適しています。

ジンバル操作モード

DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro には、次の 4 種類の操作モードがあります。アップライト、吊り下げ、ペンライト、ブリーフケース。

- ☀️ • DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro のジンバル操作モードは同じです。以下の例では、DJI RS 4 を使用しています。



① アップライトモード

これはジンバルの標準操作モードで、歩きながらの撮影や走りながらの撮影など、ほとんどの撮影シナリオに適しています。

② 吊り下げモード

ジンバルが反転し、カメラが低位置になります。このモードは、地上の被写体のトラッキングなど、ローアングル撮影に適しています。

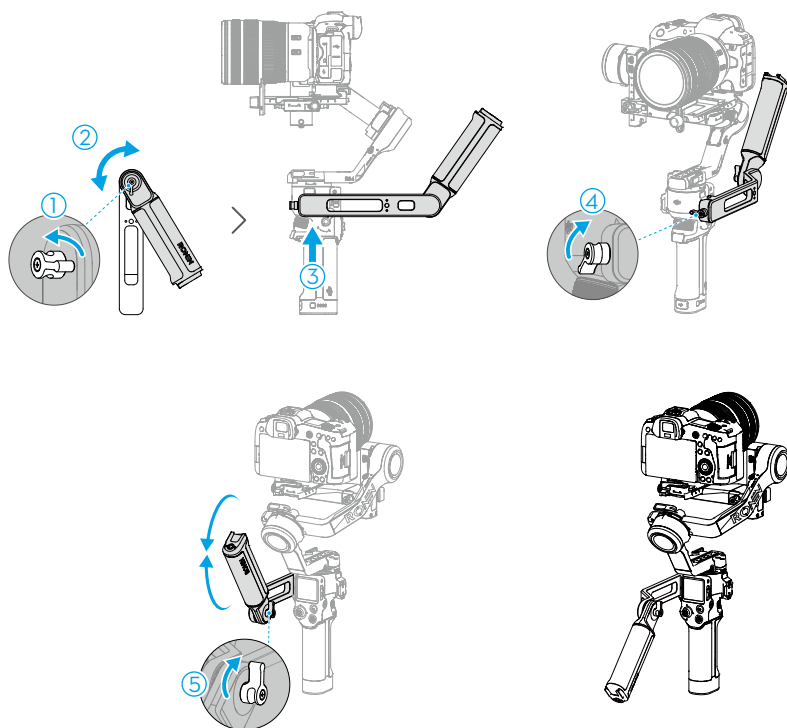
③ ペンライトモード

ジンバルがペンライトのように水平に保持されます。このモードは、狭い空間での撮影に適しています。

④ ブリーフケースモード

このモードではブリーフケースハンドルをインストールする必要があります。ブリーフケースハンドルの角度はノブで調整できます。ジンバルのコードシューと 1/4 インチ -20 取り付け穴によって、撮影を補助するための外部モニターを取り付けることができ、ローアングル撮影でのカメラワークをより直感的に行えます。

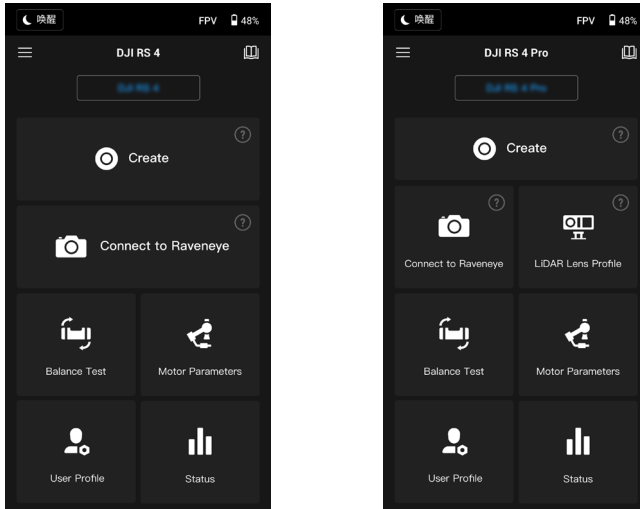
下図に従ってブリーフケースハンドルをジンバルに取り付けます。



- ブリーフケースハンドルは、タッチ画面左側の NATO ポートに取り付けることをお勧めします。

Ronin アプリの設定

Ronin アプリを使用して、ジンバルのアクティベーション、ファームウェアの更新、インテリジェント機能の使用、映像伝送を行うことができます。モーターパラメーター、ユーザープロフィール、ジョイスティック速度、ジョイスティック方向もこのアプリで調整できます。システムステータス、ユーザーマニュアル、チュートリアルビデオも利用できます。



トップバー

スリープ／スリープ解除：タップすると、スリープモードが開始／解除します。

FPV：現在のフォローモードを表示します。

バッテリー残量：ジンバルの現在のバッテリー残量を表示します。

詳細

設定：ユーザーのアカウント、言語、クイックスタートガイドを表示します。

機器リスト：デバイスのSN（シリアル番号）、デバイス名、パスワードを表示します。

ファームウェア：ファームウェアバージョンを表示します。

アカデミー

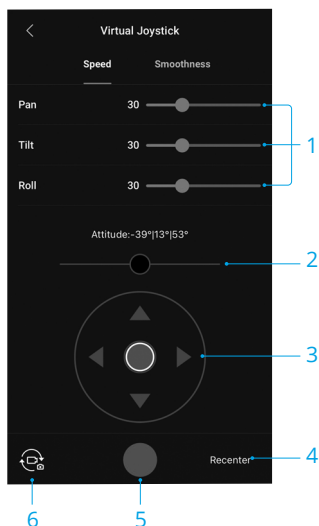
チュートリアルを見て、マニュアルをぜひ読んでください。

作成

仮想ジョイスティック、Force Mobile、パノラマ、タイムラプス、トラック、ゲームコントローラーが含まれます。

ジンバルをフォーカスマーターに接続すると、フォーカス制御も含まれます。

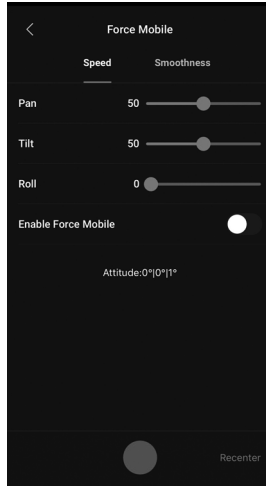
仮想ジョイスティック



アプリの仮想ジョイスティックを使用してジンバルの動きを制御し、撮影します。

1. 制御バー：制御バーを調整して、ジンバルの速度とスムージングを制御します。速度では、ユーザーは遠隔操作での回転速度を調整できます。スムージングではユーザーがジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。
2. ロールスティック：仮想ジョイスティックを使用して、ジンバルのロール軸の動作を制御します。
3. パン／チルトスティック：仮想ジョイスティックを使用して、ジンバルのパン軸とチルト軸の動作を制御します。
4. 再センタリング：タップすると、ジンバルを再センタリングします。
5. 撮影／録画ボタン：タップすると、写真の撮影または動画の録画を行います。
6. 写真／動画の切り替え：タップすると、写真モードと動画モードを切り替えます。カメラ設定と同一のモードになっていることを必ず確認してください。

Force Mobile



Force Mobileを使用するには、スマートフォンホルダーとスマートフォンが三脚またはハンドルバーに垂直に取り付けられている必要があります。

Ronin アプリでこの機能を有効にすると、スマートフォンを傾けたり回転させたりしてジンバルの動きを制御できます。

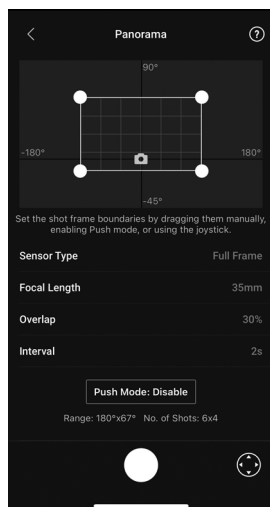
速度は回転速度と角度との関係性を決定します。速度を 50 に設定すると、ジンバルとスマートフォンの回転角度は 1 対 1 になります。

スムージング：ジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。

再センタリング：タップすると、ジンバルを再センタリングします。

シャッター／録画ボタン：タップすると、写真の撮影または動画の録画を行います。

パノラマ



パノラマでは、センサータイプ／レンズ焦点距離／オーバーラップ／間隔に基づいた精密な制御で、相互につなが合わせることのできる一連の写真を撮影できます。

パノラマを使用する前に、対応するカメラ制御ケーブルを使用してカメラとジンバルが接続されていることを確認してください（Bluetooth 接続は非対応です）。

オーバーラップはパノラマの生成時にすべての写真のオーバーラップ率を決定します。

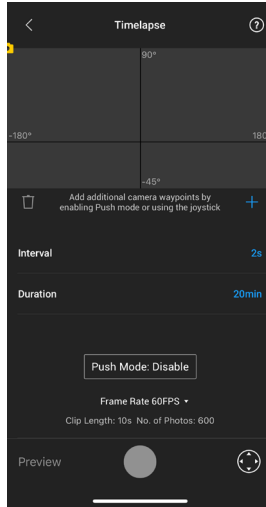
長時間露光の使用時に映像がぼやけないようにするには、写真の撮影間隔を、シャッター時間よりも 1 秒長く設定する必要があります。

カメラの設定を確認したら、グリッドマップ上の白い点をドラッグするか、ジンバルを手動で調整するか、仮想ジョイスティックを使用して、パノラマ範囲を設定できます。

パノラマの構成に必要なエンドポイントとショットでカバーされる全範囲がグリッドマップ上に表示されます。パノラマのチルト軸の範囲は、撮影ショットにジンバルが映ることがないように、 -45° ～ $+90^{\circ}$ で、一方パン軸では 360° 完全に回転して撮影できます。

シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

タイムラプス



タイムラプスでは、ジンバルがカメラを起動し、設定した時間間隔で静止画を撮影して、完了すると自動的に停止します。タイムラプスの撮影時間とフレームレートを設定して、ジンバルが必要な画像の正確な数を計算できるようにします。

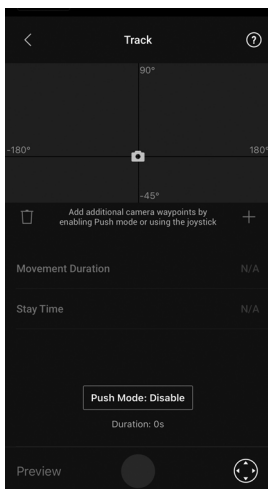
ブッシュモードを有効にすると、ユーザーはタイムラプスを起動する前にパン軸とチルト軸を手動で調整できます。ジンバルを押してカメラの向きを変更し、構図を調整できます。仮想ジョイスティックアイコンをタップすると、仮想ジョイスティックでカメラの向きを調整します。

モーションラプスでは、タイムラプス中にカメラを動作するように、最大5点までウェイポイントを設定できます。

ウェイポイントの位置を調整するには、カメラを目的の位置に調整し、+アイコンをタップしてウェイポイントを設定します。仮想ジョイスティックを使用して、パン軸、チルト軸、ロール軸を制御することもできます。

ウェイポイントをさらに追加するには、ジンバルを次のウェイポイントに移動しグリッドマップの上にある「+」アイコンをタップします。その後、ウェイポイントを削除するには、ウェイポイントを選択してから、ゴミ箱アイコンをタップします。ウェイポイントを設定したら、プレビューをタップしてモーションラプスにすべてのポイントが含まれていることを確認するか、シャッター／録画ボタンをタップして撮影を開始します。対応するカメラ制御ケーブルを使用してカメラとジンバルが接続されていることを確認してください。

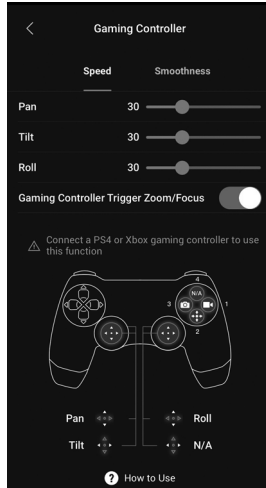
トラッキング



トラッキングは、最大 10 点までウェイポイントを設定し、動画を撮影するようにします。ユーザーはジンバルを手動で動かすか、仮想ジョイスティックを使用して、ウェイポイントを選択する必要があります。「+」をタップしてウェイポイントを追加します。ウェイポイントを追加すると、ウェイポイント設定画面で時間と滞在時間を設定できます。ウェイポイントの位置をリセットすることもできます。グリッドマップの下の時間パラメーターは、ジンバルが 1 つのウェイポイントから次のウェイポイントまで移動する際の時間を示します。滞在時間は、次のウェイポイントに移動する前に、ウェイポイントでジンバルがどのくらいの時間静止するかを示します。

⚠ ・トラッキングの使用中はカメラのシャッターボタンを絶対に押さないでください。

ゲームコントローラー



ジンバルとカメラの制御に PS4 DualShock と Xbox コントローラーを使用することができます。モバイル端末とジンバルにコントローラーを接続すると、ジンバルの動作／フォーカス／ズームを制御することができ、動画の撮影、ジンバルの再センタリング、写真の撮影ができます。

操作スティックの速度とスムージングを調整することができます。最適な性能を発揮するためには、カメラ設定のフォーカス値を 10 以内に設定します。iOS 13 以降、Android 9.0 以降、Ronin アプリ v1.7.0 以降が必要となります。

ゲームコントローラーの詳細については [使用方法] をタップします。

映像伝送

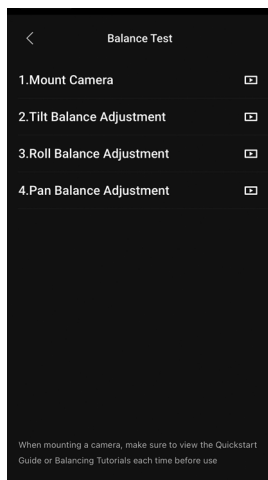
DJI Ronin 映像トランスミッターを取り付けると、Ronin アプリのホーム画面で [RavenEye に接続] をタップして、映像伝送機能を使用できます。

LiDAR レンズプロファイル (DJI RS 4 Pro)

DJI RS 4 Pro では、対応レンズのフォーカスローを自動的にキャリブレーションしたり、フレンジ距離を調整したりできます。詳細については、「[DJI Focus Pro Motor および LiDAR のインストールと使用](#)」を参照してください。

バランステスト

このページにあるチュートリアルビデオを視聴してください。

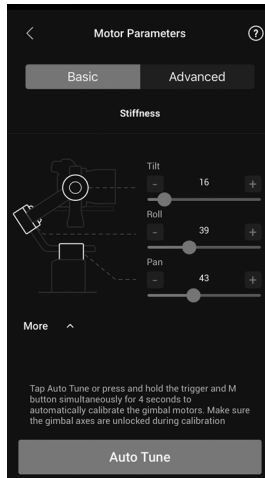


モーターパラメーター

ベーシックメニューとアドバンスメニューがあります。剛性は、ベーシックメニューで表示と調整ができます。さらに、強度はアドバンスメニューで調整できます（必要がある場合のみ、調整してください）。

[オートチューン] をタップすると、ジンバルはジンバル設定の重量に基づいて自動的に結果を算出します。

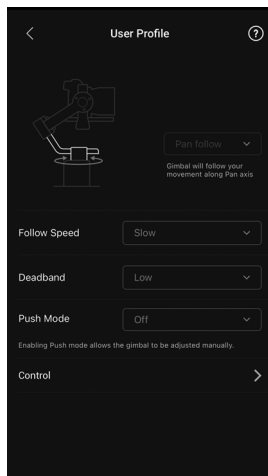
キャリブレーション後、画面下部に詳細なモーターの診断が表示されます。ジンバルが適切にバランスされている場合は、モーターの電力値が、 ± 5 の範囲になります。特定の軸で消費電力がその範囲を常に超える場合は、ジンバルの機械的バランスを確認する必要があります。



ユーザープロフィール

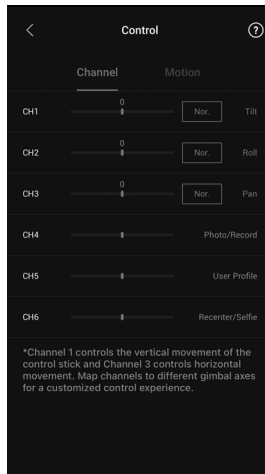
このページでは、ジンバルモード、フォロー速度、デッドバンド、プッシュモード、ジョイスティック操作の設定ができます。

デッドバンドはカメラのパン軸／チルト軸／ロール軸の動きを変換する前に、ジンバルがどの程度の動きを許容するかを決定します。

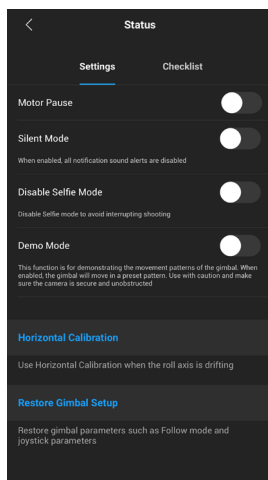


制御設定

チャンネル	チャンネルインジケータはリモート操作を構成時にフィードバックを提供します。パン、チルト、およびロールチャンネルを再割り当てでき、各軸を反転させることもできます。「正常」は、動きの方向がジョイスティックと同じであることを意味します。「反転」は、動きの方向がジョイスティックの反対であることを意味します。 ジョイスティックを使用する場合は、デフォルトでチルトおよびパン軸にマッピングされている CH1 および CH3 のみを制御できます。画面右側の軸名をタップすると、チャンネルマッピングをカスタマイズできます。
動作	各軸のデッドバンド、最大速度、スムージング、エンドポイントを調整することで、ジョイスティックの制御を設定することができます。各設定には、3つのデフォルトプロファイルがあります。
デッドバンド	デッドバンド値を大きくすると、ジンバルの実際の動作に変換するために必要なスティックの動きが大きくなります。
最大速度	リモート制御での回転速度を調整できます。
スムージング	スムージングにより、ジンバルの感度を制御できます。
エンドポイント	エンドポイントを設定して、ジンバルの回転範囲を制限します。パン軸にはスリップリングがあり、エンドポイントが 180° に設定されている場合に、ジンバルが連続回転できるようにします。チルト軸では、要件に応じてエンドポイントを設定できます。レンズが長いと、ジンバルフレームに当たる場合があります。そうならないよう、エンドポイントの角度を設定してください。



ステータス



設定

モーターの一時停止、サイレントモード、水平キャリブレーション、ジンバル構成の復元などの機能を使用できます。

チェックリスト

Bluetooth とカメラの接続状態を表示します。ジンバルの状態が異常な場合、ここにそのステータス情報が表示されます。

グリップおよび内蔵バッテリー

DJI RS 4 には、3,000 mAh バッテリーを内蔵した BG21 グリップが装備されており、ジンバルの最大動作時間は約 12 時間^[1]です。DJI RS 4 Pro には、1,950 mAh バッテリーを内蔵した BG30 グリップが装備されており、ジンバルの最大動作時間は約 13 時間^[1]です。両方のジンバルは、BG70 大容量バッテリーグリップと互換性があるため、DJI RS 4 と DJI RS 4 Pro の駆動時間をそれぞれ 29.5 時間と 29 時間^[2]に延長して、長時間の撮影時に中断なく電源を供給することができます。

[1] ジンバルを水平に静置し、バランスが取れた状態で測定。ジンバルが動く状態では、動作時間は少なくなります。

[2] ジンバルを水平に静置し、バランスが取れた状態で、24℃のラボ環境で測定（参考値としてのみ使用）。

安全ガイドライン

⚠ 重要 正しい手順に従わないと、物的損害、付随的損害、重大な人身事故の可能性があるほか、高い確率で軽傷を負う可能性があります。

⚠ 注意 正しい手順に従わないと、物的損害が発生する可能性があります。人身事故の可能性は全くないか、あってもごく軽微です。



警告

ユーザーマニュアルをよく読んで機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を正しく操作しないと、本製品や個人の財産の損害や重傷を引き起こすおそれがあります。本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識を持った操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品を安全かつ責任を持って操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。

本製品は、大人の監督下にないお子様の使用を想定していません。互換性のない部品を使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用の前に、ユーザーマニュアルに記載されている手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

火災、重傷、物的損害を避けるため、グリップの使用、充電、保管時には、以下の安全ガイドラインを順守してください。



警告

グリップの使用

- グリップはいかなる液体類にも触れないようにしてください。グリップを雨にさらしたり、湿気の多い場所に放置したりしないでください。グリップを水に入れないでください。バッテリー内に水分が入ると、化学分解が起こり、バッテリーが発火したり、爆発につながったりするおそれがあります。
- グリップが誤って水中に落ちた場合は、グリップをすぐに安全な開けた場所に置いてください。完全に乾燥するまで、グリップから安全な距離を保ってください。そのグリップは以後使用せず、「グリップの廃棄」の記載に従って、適切にグリップを廃棄してください。
- 水、砂、消火用毛布、あるいは乾燥粉末消火剤を使って消火してください。

4. DJI 製以外のバッテリーを使用しないでください。新しいバッテリーを購入するには、www.dji.com にアクセスしてください。DJI 以外のバッテリーに起因する損害に対して、DJI は一切責任を負いません。
5. グリップに膨張、漏れ、損傷がある場合は使用しないでください。グリップに異常がある場合は、DJI または DJI の正規代理店にご連絡ください。
6. グリップは -20℃～45℃の温度範囲で使用してください。50℃を超える環境でグリップを使用すると、火災や爆発につながるおそれがあります。-10℃以下でグリップを使用すると、回復不能な損傷につながる可能性があります。
7. 強い静電環境や電磁環境でグリップを使用しないでください。そのような環境では、バッテリーの制御盤が誤作動する恐れがあります。
8. いかなる方法でもグリップを分解したり穴をあけたりしないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
9. バッテリーを落下させたり、叩いたりしないでください。グリップの上に重量のある物を置かないでください。
10. バッテリーの電解液には非常に高い腐食性があります。電解液が皮膚に触れたり、眼に入ったりした場合には、ただちに流水で 15 分以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
11. 落下した場合は、グリップを使用しないでください。
12. バッテリーを加熱しないでください。電子レンジや高压容器内にグリップを入れないでください。
13. 手でグリップを短絡させないでください。
14. 清潔な乾いた布でグリップ端子を清掃してください。

グリップの充電

1. 充電中にグリップを放置しないでください。可燃物の近くやカーペット、木などの燃えやすい物の上でグリップを充電しないでください。
2. グリップを 5℃～40℃の温度範囲外で充電すると、漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。推奨する充電温度は 22℃～28℃です。

グリップの保管

1. グリップはお子様やペットの手の届かないところに保管してください。
2. グリップを長期間保管する場合は、バッテリー残量が 30%～50%になるまでグリップを充電してください。
3. 暖炉やヒーターなどの熱源の近くにグリップを放置しないでください。暑い日にグリップを自動車内に放置しないでください。推奨保管環境温度は 22℃～28℃です。
4. グリップを乾いた状態で保管してください。

グリップのメンテナンス

1. 極端な高温や低温でグリップを使用しないでください。
2. バッテリーは、45℃を超える高温環境および 0℃以下の低温環境で保管しないでください。

移動時の注意事項

1. グリップを航空機に持ち込む場合は、あらかじめ放電してバッテリー残量を 30% 未満にしておく必要があります。グリップは耐火性の場所でのみ放電し、通気性の高い場所で保管してください。
2. グリップを眼鏡、時計、宝飾品、ヘアピンなどの金属に近づけないでください。
3. 損傷したグリップや、バッテリー残量が 30% を超えるグリップを搬送しないでください。

グリップの廃棄

完全に放電してから、指定のリサイクルボックスに入れてグリップを廃棄してください。通常のゴミ容器にグリップを入れないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

注記

グリップの使用

1. 使用前にグリップが完全に充電されていることを確認してください。
2. ローバッテリー警告が表示されたら、できるだけすぐにグリップの充電を行ってください。

グリップの充電

1. グリップは、完全に充電されると充電を停止する設計になっています。ただし、充電の進捗状況を監視し、完全に充電したらグリップの接続を取り外すことをお勧めします。

グリップの保管

1. グリップを 10 日以上使用しない場合は、40 ~ 65% までグリップを放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。
2. グリップが長期間保管されバッテリーが消耗すると、グリップはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するにはグリップを再充電します。
3. 長期間保管する場合には、ジンバルからグリップを取り外してください。

グリップのメンテナンス

1. 長期間使用しないと、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
2. グリップを良好な状態に保つために、3 カ月に 1 回はグリップを完全に放電したあとに完全に充電してください。

グリップの廃棄

1. グリップが不能になり、バッテリーを完全に放電できない場合は、電池の廃棄またはリサイクル業者に問い合わせ、サポートを受けてください。
2. グリップの過放電後、電源が入らない場合は、すぐにグリップを廃棄してください。

メンテナンス

ジンバルは防水ではありません。使用中は埃や水から保護してください。使用後は、ジンバルを柔らかい乾いた布で拭き取ることをお勧めします。ジンバルに洗浄液を吹きつけないでください。

仕様

	DJI RS 4	DJI RS 4 Pro
周辺機器		
アクセサリポート	Ronin シリーズ アクセサリ (RSA) / NATO ポート	Ronin シリーズ アクセサリ (RSA) / NATO ポート
	1/4-20 取り付け穴	1/4-20 取り付け穴
	コールドシュー	コールドシュー
	映像伝送ポート (USB-C)	映像伝送 / LiDAR レンジファインダーポート (USB-C)
	RSS カメラ制御ポート (USB-C)	RSS カメラ制御ポート (USB-C)
	フォーカスマーター ポート (USB-C)	フォーカスマーター ポート (USB-C)
バッテリー	モデル: BHX711-3000-7.2V	モデル: BG30-1950mAh-15.4V
	タイプ: LiPo 2S	タイプ: LiPo 4S
	容量: 3000 mAh	容量: 1950 mAh
	電力量: 21 Wh	電力量: 30 Wh
	最大動作時間: 12 時間 ^[1]	最大動作時間: 13 時間 ^[1]
	充電時間: 約 2.5 時間 ^[2]	充電時間: 約 1.5 時間 ^[3]
	推奨充電環境温度: 5° C ~ 40° C	推奨充電環境温度: 5° C ~ 40° C
接続	Bluetooth 5.1	Bluetooth 5.1
	充電ポート (USB-C)	充電ポート (USB-C)
Ronin アプリ要件	iOS 11.0 以降	iOS 11.0 以降
	Android 8.0 以降	Android 8.0 以降
対応言語	英語、簡体中国語、繁体中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語、日本語、スペイン語、ポルトガル語 (ブラジル)、ロシア語、タイ語	英語、簡体中国語、繁体中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語、日本語、スペイン語、ポルトガル語 (ブラジル)、ロシア語、タイ語

動作性能		
積載量（試験値）	3 kg	4.5 kg
制御可能最大回転速度	パン：360° / 秒	パン：360° / 秒
	チルト：360° / 秒	チルト：360° / 秒
	ロール：360° / 秒	ロール：360° / 秒
機械的可動範囲	パン軸：360°連続回転	パン軸：360°連続回転
	ロール軸：-95°～+240°	ロール軸：-95°～+240°
	チルト軸：-112°～+214°	チルト軸：-112°～+214°
機械的および電気的特性		
動作周波数	2.4000 ～ 2.4835 GHz	2.4000 ～ 2.4835 GHz
Bluetooth 伝送電力	<8 dBm	<8 dBm
動作環境温度	-20° C ～ 45° C	-20° C ～ 45° C
重量	ジンバル：約 1,066 g	ジンバル：約 1,242 g
	グリップ：約 203 g	グリップ：約 265 g
	延長用グリップ／三脚（プラスチック製）：約 183 g	延長用グリップ／三脚（金属製）：約 226 g
	上部および下部クイックリリースプレート：約 98 g	上部および下部クイックリリースプレート：約 110 g
サイズ	折りたたんだ状態：245 × 255 × 75 mm（長さ×幅×高さ。カメラ、グリップ、延長用グリップ／三脚を除く）	折りたたんだ状態：271 × 283 × 75 mm（長さ×幅×高さ。カメラ、グリップ、延長用グリップ／三脚を除く）
	展開状態：370 × 191 × 189 mm（長さ×幅×高さ。高さはグリップを含み、延長用グリップ／三脚を除く）	展開状態：416 × 223 × 202 mm（長さ×幅×高さ。高さはグリップを含み、延長用グリップ／三脚を除く）

- [1] ジンバルを水平に静置し、バランスが取れた状態で測定。ジンバルが動く状態では、動作時間は少なくなります。
- [2] 18 W 急速充電対応充電器で測定。PD プロトコル対応充電器の使用をお勧めします。
- [3] 24 W 急速充電対応充電器で測定。QC（Quick Charge）2.0、または PD プロトコル対応充電器の使用をお勧めします。

お問い合わせはこちら



お問い合わせ
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。



<https://www.dji.com/rs-4/downloads>

<https://www.dji.com/rs-4-pro/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（DocSupport@dji.com）宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。

Copyright © 2024 DJI OSMO All Rights Reserved.